

被災地の子どもと教職員へ、学校と教育の復興へ、全国から支援と激励を！

東日本大震災支援ニュース

第24号

全教・教組共闘 東日本大震災対策本部

2011年10月19日

CGT（フランス労働総同盟）から暖かい支援、 子どもたちに本が贈られました。（9／30）



（石巻市教育委員会にて 左から3人目が境教育長）



（届けられた絵本）

CGTから、「被災地の子どもたちのために使ってほしい」と200万円の支援金が届き、それを活用して、石巻市の雄勝小学校と吉浜小学校の子どもたちに本が寄贈され、喜ばれています。9月30日、CGT国際部のマリアニック・ルブリスさん、アヴェニール・ソーシャル事務局長のジャック・ヴァレさんが来日し、全教の中村尚史国際局長とともに石巻市を訪問しました。

石巻市教育委員会では境教育長が応対し、「小中学校14校が津波の被害で校舎を使えない。現在は、被害のなかった校舎を借りたり、仮設校舎で授業をしている。石巻市では、幼稚園児から高校生まで182人、教職員14人が犠牲になった（うち大川小の子ども74名・教職員11名）だった」など石巻市の被災状況を説明しました。

吉浜小学校では、佐藤校長が「校舎、体育館は全壊したため、学校は北上地区の3小学校（吉浜小・橋浦小・相川小）のなかで唯一大丈夫だった橋浦小学校で再開した。課題や不安はたくさんあったが、子どもたちの笑顔を早く取り戻したいということで、4月21日再開に踏み切った。子どもたちの家で無傷だったのは1軒だけ。今年度は51名でスタート予定だったが、家がなくなったということで30名が転出。その後も転出があり、現在は18名。その子どもたちの中にも家族を亡くした子どもがいる。非常に恐ろしい体験をした子、今も夢を見て苦しむ子がいる。3校あわせて173名と一緒に学んでいる。友達もでき、日に日に子どもたちは元気になってきた。犠牲になった子どもたちの夢も含めて生きていこうと話合っている。今回の津波で大変な経験もしたがあたたかい支援にも支えられた。ありがとうございます。」「統廃合の話もあるが、本当は吉浜に学校を残したい。」と語りました。